

「華麗なる河村一族」

◎ なに(どこ)が、「華麗」か？

- 1人の藩士から6分家が生まれ、すべてが明治まで家をつなぐ
- 3代の6人の著名な学者を輩出
- 四千石の家老2名を輩出

◎ 本日の話題

- I. 河村一族のルーツ
- II. 尾張の大冤罪事件
- III. 御書物奉行の子孫

次頁の系図をご覧ください

I. 河村一族のルーツ

「士林浜廻」：駿府新参衆

①. 河村氏の祖先：義朝に味方し、平治の乱で東国へ

- ◎ 駿州「河村郷」、(菊川町or足柄郡)へ
- ◎ 系図上の姓(か)は「藤原」、
「士林」では「平」、
- ◎ 地方豪族化して、地名の「河村」を名乗る
(多分今川の家臣として戦国時代を過ごす)

②. 尾張藩士の河村氏

① 兵右衛門 吉綱

- ▽ 代々住相州河村郷 後住駿府
- ▽ 仕中村式部少輔 (小田原征伐)

② 九郎右衛門 吉久 (秀久) 3子あり

- ▽ 関原ノ役属中村一学陣代中村彦左衛門ニ 其後 有故退去駿府
- ▽ 後年 於駿府敬公六歳之時被召出大坂役供奉
- ▽ 凱旋ノ之後賜二百石ヲ為御馬廻 亦為御賄頭及老辞職為御馬廻

- i ③ 九郎右 秀政 ○
- iii 次郎兵 吉長 ○ F
- iv 六郎兵 吉忠 ○ 吉岡姓

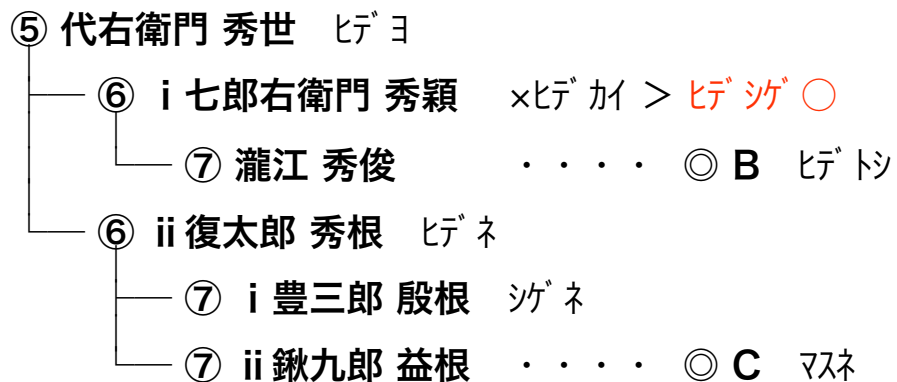
③ 九郎右衛門 秀政 6子あり

- ii 九郎作 秀信 ○ A
- iv ④ 九郎右衛門 長秀 ○ B & C
- v 井出金弥 富秀 ○ D
- vi 兵蔵 方秀 ○ E

A~E & F の家が幕末維新まで存続

③. 学者河村氏3代の系譜 別に3代年表あり。要参照

④ 九郎右衛門 長秀 ○ B & C



④. 文会書庫 紀典学の発祥

安永2年(1773)、「文会書庫」を公開。蔵書数2万余。

文庫の扁額は京の公家・伏原(清原)宣條(のりえだ)による。

- 秀世 + 秀穎 + 秀俊の蒐集本。白壁町の自宅で公開。 その時、秀根は？
- 秀根：享保18年(1733)に分家(江戸詰)、元文4年(1739)免職名古屋
長男殷根は寛延2年(1749)、大津町1丁目で誕生

II. 尾張の大冤罪事件 (幻のクーデター事件)

顛末： 安永六年(1777)十月六日、朝廷を煽動して幕府転覆を企てたという誣告により、秀根父子が捕らえられ江戸送り。取り調べにより、翌年全くのえん罪と認定される。 とんだとばっちり！

事件の首謀者と経緯： 町医蘇森長秋の子、子桂（当時18歳）は岡田新川に学ぶ英才。しかし医業を怠り、稀書の蒐集に没頭し借金で困窮。そこで、秀根を訴人して殺害すれば、秀根からの借用品は着服でき、報奨金で書籍が買えると短慮。しかし武士の秀根を謀殺できず、謀で仲間を集め、さまざまな画策したが尾張では効果なし。偶然、笠寺で出会った幕府の役人に、秀根謀叛のことを話すと、江戸では大騒動となり、関係者全員拘束の上、江戸送りとなる。江戸で対決し、秀根父子の完全無罪、冤罪が認定。一方、蘇森長秋は獄死。子桂は獄門打ち首。

なぜ荒唐無稽なえん罪事件がおきたのか？： 尾張ではだれも相手にしない与太話。しかし幕府役人は 事実 と考えた。

理由：① 河村3代は和歌を京の冷泉為村・為泰に学び、頻繁に添削のやりとりをしていた。

② 秀根の兄 秀穎＋甥 秀俊は、かつて京に赴任していた。

③ 秀根は当時惣髪で公家風。「もし今謀叛を企てる者がいるなら、河村復太郎以外にはいない」という世間の風評。

④ 秀根の履歴：享保18年(1733)、11歳で分家を興し、江戸で国丸の小姓。国丸薨後、宗春の近習。元文2年(1737)、名古屋に戻るも、元文4年、宗春の謹慎に伴い致仕。宝暦2年(1752)宗春の奥番。事件当時、宗春の側近中の側近。

結論（事件の裏にみえるもの）： 宗春（尾張）が朝廷と結んで謀叛という影におびえた過剰反応 <北川氏の“宗春論、を参照

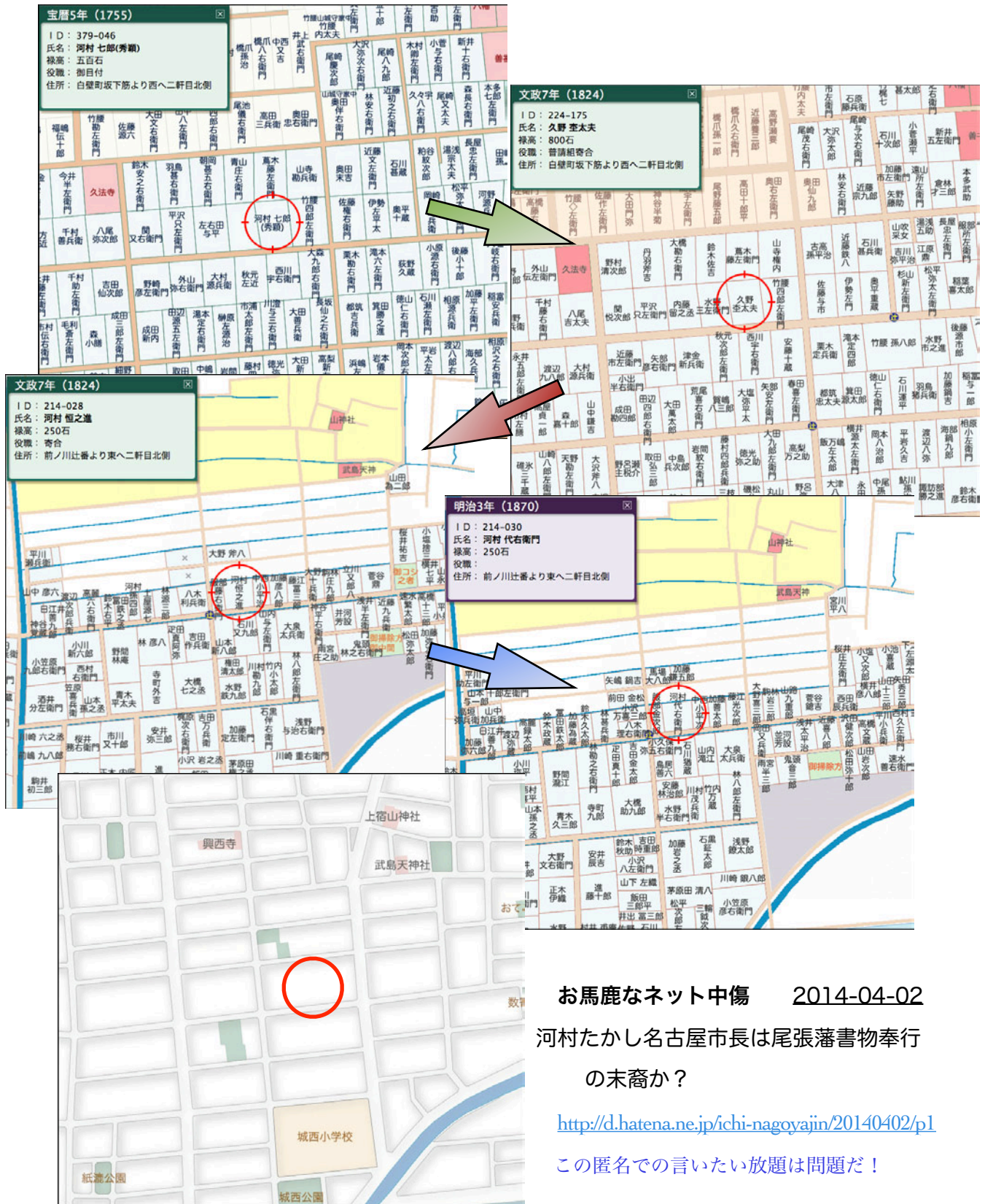
参考文献：袂草、諸家雑談五、金明録、金鱗九十九塵など

III. 御書物奉行の子孫

御書物奉行=秀頼 B系統、(学者の子孫ならCも含む)

秀俊は無嗣。稲葉家から恒之進を養子に。幕末はその孫の代右衛門

○ 幕末の台右衛門の役宅に居住した人物が、子孫である！



お馬鹿なネット中傷 2014-04-02
河村たかし名古屋市長は尾張藩書物奉行の末裔か？

<http://d.hatena.ne.jp/ichi-nagoyajin/20140402/p1>
この匿名での言いたい放題は問題だ！